

楠那学区 わがまち探究



企画・編集

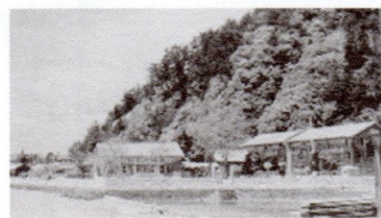
(財)広島市未来都市創造財団 広島市楠那公民館内
楠那学区わがまち探究隊

2011年11月



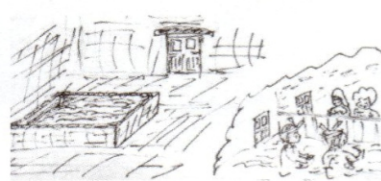
② 楠那小学校跡地

昭和13年に建てられた旧楠那小学校は、現在の楠那公民館、楠那保育園、南区スポーツセンターがある場所にありました。楠那小学校は明治7年8月1日に開校しましたが、明治43年5月26日に平屋建2棟の新校舎完成とともに移転して、以後それを記念して5月26日が開校記念日になりました。その後、昭和13年には木造2階建1棟に、昭和50年には現在の校舎に移転しました。現在、跡地には二宮尊徳先生幼児之像と奉安殿が残っています。奉安殿には「天皇陛下と皇后陛下の写真(御真影)」と「教育勅語」が納められていました。



③ 楠那公園

かつてはここに楠那保育園がありました。昭和の時代に保育園に江田島の桜が7本植樹されましたが、現在は1本しか残っていません。



⑤ 胡神社

寛保年間(1741～1743年)に創建、はじめは丹那岩風呂の西側に接した海辺の地に建てられましたが、明治の終わりに、埋立地が出来たときに現在地に移動しました。創建以来、穴神社の祭礼の時のお旅社となっているといわれています。



⑥ 大雁木跡(現在の丹那町三浦家付近)

雁木とは、道から海岸などに降りるための、棒などを埋めて作った船着き場や棧橋の階段のことをいいます。群れて飛ぶ雁の列のようにジグザグの形をしていることから呼ばれるようになりました。残念ですが、埋め立てにより現在は面影が残っていません。

⑦ 道標

地蔵尊の前に石標があって、「右 穴神社日宇那説教所、宇品道。左 楠那小学校、日宇那 丹那一里」と彫られています。



⑧ 黄金山道標

丹那区の石標です。「左 大河、比治山 道。右 本浦、火葬場 道」と彫られています。

⑩ 清水神

「水波女(みずはのひめ)之神」を祭っており、裏に「享保18年癸 6月吉日」と記されています。昔は清水を溜める長方形の泉が解放されていたが、現在は波板で囲われています。

■清水神についての伝承■

昔、修行僧が丹那に来て「水を飲ませて欲しい」と頼んだところ、快く清水神の水を飲ませてくれた。修行僧はお礼に「ますます良い水が湧くようにしてあげよう。この水は末代まで絶えることはない。」と言ったという。それ以来、不思議なほど清水が湧き出るようになったと言われている。

〈地蔵尊〉
文化元年(1804年)に創建された延命地蔵尊です。清水神社の境内右手に並び建立されています。



⑪ 稲荷神社(いなりさん)

正応元年(1288年)に現在地に稲生社が創建されました。明治12年11月、安芸郡長へ届け出のときは、穴神社の相殿(あいどの)の内の大年神(大歳神)が合祀された記録が残っており、明治21年11月まで続きましたが、のちに別社扱いになりました。この神社の山下と向いの東山との間で古い時代に農耕を始めていたため、稲生神は古くから信仰されていました。

⑫ 貝塚跡

丹那稲荷神社右手下の古い石積のくぼみの地に、小貝などの貝殻が混ざったせまく平たい山畑の跡があります。他にも、日宇那西側黄金山の山裾約30m位の地点(ひうな荘入り口付近)の山肌にも同様の貝殻が混じった場所があります。これらは古い時代の住居の跡が付近にあった可能性を示しています。



⑬ 最勝寺

明治27年から寄進が始まり、明治33年10月22日に棟上げが行われました。建立当時は洲崎西福寺の説教場として使用されました。福原、須崎、松本の世話役が本願寺に申請し、その熱意によって明治34年に御本尊像が丁寧に安置され、昭和39年に現在の「最勝寺」に改められました。最勝寺は「丹那説教所」の名称で、被爆建物として登録されています。

⑭ 穴神社

明治12年11月、安芸郡長へ届出のときは、選保姫神社の摂社となって創立と由緒が次のように書かれています。穴神社は享保16年(1731年)に創立され、大正9年(1920年)に現在の位置に、山のすそを切り開き、台地を設けて改築されました。西暦1700年前後の海には、おこせ岩と松尾山に続く山すそに海洞があって、その洞穴の上に社殿を建て穴神社と呼んだと考えられています。昭和42年の丹那西公園地の造成によって、社殿の位置が少し下がり、現在の姿になりました。ご神木のアラカシは天然記念物級の貴重なものです。



⑮ 丹那橋

丹那橋の柱には、船をかたどったデザインが施されています。丹那橋の東詰には昭和23年までは魚市場があって、特に小鰯の水揚げが多かったそうです。ここから小鰯を広島市の街へ行商に向かう女性が多く、「なんまんしょー」「なんまんえー」「イワッショー」と呼び声をあげながら、器用に小鰯を三枚におろす大河の女性商人の姿は広島の名物の一つでした。

⑯ 倉田百三文学碑

倉田百三とは広島県庄原市出身の劇作家です。大正5年から戯曲「出家とその弟子」を書き始めたが、健康が悪化したため、穴神社東側の民家の2階に移り住み、療養を行うかわら著作に専念しました。この碑は、「出家とその弟子」完成の地として、地域の方々の篤志金により平成14年3月に建立されました。



⑰ 波返し跡(丹那)

波返しとは、高波を防ぐため、石積みの上に平らな大きな石を海側に突き出して並べて置いたものです。明治初め頃に造られ、今もその一部が残っています。

⑱ 丹那公園(三角公園)

丹那公園は丹那町の東詰にある公園で通称三角公園と呼ばれます。南は黄金山通り、北の二辺は水路に囲まれており、南からの道路が突き当たる地点で、「丹那町児童公園前」の交差点名が付けられました。これは、「街区公園」が「児童公園」だった頃の名残です。



⑲ 魚貝類供養塔

高さ150cm、幅240cm、奥行45cm、全体の高さ270cm(表面) 魚貝類供養塔(裏面) 魚貝類供養塔建設 大河地区・日宇那地区後援 11名の委員の名前等 昭和35(1960)年12月31日建之と記載されています。

■公民館■



① 楠那公民館

楠那公民館は、昭和55年10月1日に楠那中学校区を対象地域として設立され、運営されています。公民館は、実際に生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的としています。特に平成6年(1994年)10月2日から15日間開催されたアジア大会では、当館は一国一館でネパール国を支援いたしました。広島市の様々な事業においても、今なおネパール国を応援しています。

■丹那の秋祭り■



「湯玉の儀」は、若者たちが東西に分かれ、境内に並べられた二つの釜の水がどちら先に沸騰するかを競うものです。早く沸騰した方の湯は、その年の豊作に恵まれるといわれ「勝ち」が宣告されます。その湯に浸した笹で神主が全員にお祓いをした後に行われる「大名行列」が記りのメインとなります。先頭は「武者行列」です。児童達がお供えを盛った「三方」を捧げ持ち、続いて鉄砲などの武具や袴に身を固めた武者が、ゆっくり歩を進めます。最後に練り歩く「神輿」は、赤鬼(テング)、青鬼(ヤマンバ)が先導します。「神輿」の前を横切ったり、2階の窓から見物する不届き者であると、鬼は大声で詰ります。「神輿」は丹那独特の荒々しくくるまわるもみ方で、穴神社を出発した行列は、ゆっくり日街道を東に向い、丹那の東端にある胡神社で終わります。

⑳ 社倉

宝暦5年(1755年)頃、現在の光明寺の裏に飢饉対策として建てられました。切干芋、麦、米等を備蓄する為のものでした。その管理と運営には、漁民が一致協力してあたり、明治12年まで続いたそうです。現在は、補修して町内会の倉庫として利用されています。



㉑ 新宮神社

寛永10年(1633年)に、古くからあった山王さん荘厳にして新宮神社と呼んで、明治12年ごろ竜(かまど)神社を合祀してきた新宮神社でした。ところが明治42年に選保姫神社に吸収されて、日宇那浦から神社の姿を失っていました。戦後、埋立築造後になって光明寺前(日宇那町11-22)に小社を設けて、秋の祭礼のつど選保姫神社司宮の手によって神事が行われることになりました。

㉒ 小中商店

酒類販売許可制法が明治5年(1872年)に制定されました。小中商店には、広島で最初に発行された許可証が掲げられています。



㉓ 波返し跡(日宇那)

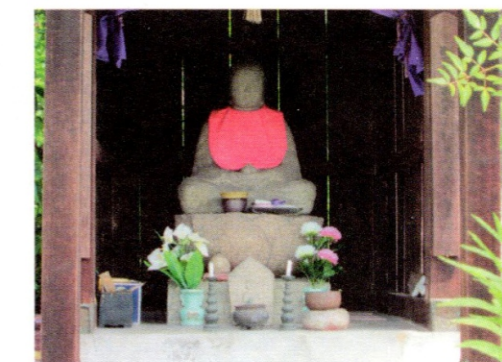
海岸の堤防や護岸で、波しぶきが打ち上げられるのを防ぐために施工された施設を言います。埋め立てにより海岸線が後退したため、現在は少ししか残っていません。

■まだまだあります楠那学区の史跡■

㉔ 馬頭観音像



㉕ 地蔵菩薩



㉖ 忠魂碑

楠那の忠魂碑は、昭和8年4月、日清・日露戦争での戦死者を供養するために建立されました。題字は元帥伯爵であった東郷平八郎によるものです。太平洋戦争以前には全国に多くの忠魂碑がありましたが、戦争に敗北したことにより、多くの忠魂碑がGHQの指示により撤去されました。

㉗ 聖上陛下登極50年記念林碑

明治43年10月に黄金山の官有林23町5反20歩の払い下げを受けて仁保島の村有財産としたことを記念して建立されました。昭和40年代には、この碑に沿った山手に日宇那・楠那間の主要道路がありましたが、現在は閉鎖されています。



㉘ 岩鼻

岩鼻とは、かつて海岸線にあった岩礁です。現在は、飛び出した岩鼻の先端はほとんど埋没していますが、昔は平面の岩場が広がって子どもの遊び場になっていました。現在も露出している部分は、道路から海辺に降りる足場として使われていました。

㉙ しお湯

日宇那のしお湯も丹那の石ぶろと同じように岩山に横穴を掘り、同じ手順で岩穴全体を熱したようです。開業時期もほぼ同じ頃でした。昔は、風呂屋のすぐ目の前が海で(現在日宇那運動公園)海水をポンプで汲み上げ、しお湯として開業していました。現在は閉業しているが建物は、昔のまま残っています。

しお湯内部の様子▶



㉚ 光明寺

明治6年8月に当時115戸の門徒が600円の財源を集めて説教場を建てたのが始まりです。現在の建物は昭和4年(1929年)12月に総工費16,452円で立て替えられた建物で、昭和30年に光明寺と改名されました。元は浅野藩主の祈禱所であったことから、現在でも本堂の両側には浅野家の紋章の入った提灯が見られます。昔は、すぐ目の前が海のため、広場は日宇那の唯一の公園地でした。光明寺は「日宇那説教所」の名称で、被爆建物として登録されています。



▲昭和33年 埋立前の丹那港



戦後の宇品東埋立前の日宇那港▶